

メディアリテラシーの違いによる情報の信頼性と中立性の判断

慶應義塾大学 正会員 ○水上 象吾
慶應義塾大学 非会員 福井 弘道

1. 研究の背景と目的

現在、科学技術にかかわる意思決定や政策形成を行う上で、専門家と共に市民参加の重要性が指摘されるようになってきている。高レベル放射性廃棄物 (High-Level radioactive Waste, 以下「HLW」) の処分問題においても、国内における処分施設立地について国民の理解が必要であると指摘されており¹⁾、リスク・コミュニケーションにおける情報提供のあり方は重要な課題である。

HLW処分問題にかかわる市民意識は性別、年齢といった個人属性や地域によっても異なることが示されており²⁾、同じ情報に対してもさまざまな立場やメディアリテラシーの違いによって受け止め方は異なると考えられる。

本稿では、HLW 処分問題における情報収集と提供を事例に、情報媒体の違いを考慮し、メディアリテラシーの違いによって情報の信頼性と中立性の受け止め方が異なるかを検討する。

2. 研究の方法

(1) 調査方法

本稿は、「高レベル放射性廃棄物・TRU廃棄物 リスク・コミュニケーション広場」³⁾ と称したインターネットサイトにおけるユーザー登録者を対象とした質問票調査に基づいている。サイトでは、HLW処分に関するニュースや関連情報を収集し掲載している。また、ユーザー登録者による発言、意見交換が可能な電子会議室 (掲示板) を設置している。

アンケート調査は、2009年2月5日～15日に電子メールによる回答を依頼し、サイト上での回答を得た。回答は132票、性別は男性57.6%、女性42.4%であり、年齢は10歳区分に20歳代から70歳以上までの各層が含まれる。

(2) 分析方法

分析は、アンケート結果より各質問項目の関係性についてクロス分析により統計的有意差を検定し、クラマーのV係数を検討することで関係性の強さをみる。本文におけるカイ二乗検定による有意水準の表示は*** P<0.01, ** P<0.05, * P<0.1 とし、関係の強さはCramer 係数をVとして示す。

3. 分析結果

(1) 情報の信頼性

メディアリテラシーの違いによる情報の信頼性の判断

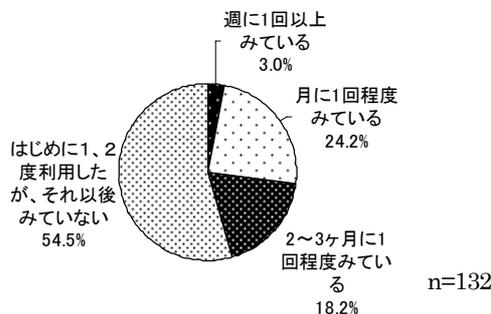


図1 サイトの利用状況

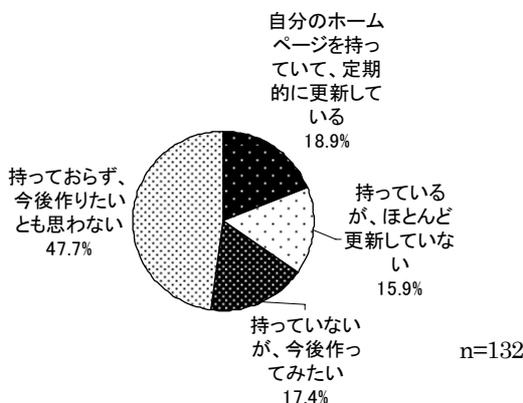


図2 ホームページの所有

の差異を調べ、情報媒体の影響を検討する。本稿では、情報を識別し評価できる能力とされるメディアリテラシーにおいて、メディア利用のスキルと、メディア表現のスキルを検討する。

まず、インターネットサイトの利用状況を測定した (cf. 図1)。また、ホームページ (ブログ含) の所有を測定した (cf. 図2)。以上の項目について、インターネットサイトの利用頻度をメディア利用のスキルとみなし、自己のホームページの所有をメディア表現のスキルとみなす。

「高レベル放射性廃棄物」に関する情報をどの情報媒体から得ているかを複数選択により回答を得た (cf. 図3)。『テレビ』『新聞』といったマスメディアが多い。

情報の信頼性の判断についての回答 (cf. 図4) では、各項目の a『そのまま信頼』と f『信頼しない』が直接的な判断であると解釈できる。また、b『名前を見て判断』と c『メディアの種類により判断』は、発信元により判断する項目、d『他の内容を見て判断』と e『他の複数の情報と比較』は、内容の比較による判断とみなせる。

つぎに、「情報の信頼性判断」と「サイトの利用頻度」との関係性を調べた。クロス分析により有意差が認められ、

キーワード：メディアリテラシー、高レベル放射性廃棄物、情報、信頼性、中立性

連絡先：〒252-8520 神奈川県藤沢市遠藤 5322 慶應義塾大学 e-mail: shogo@sfc.keio.ac.jp

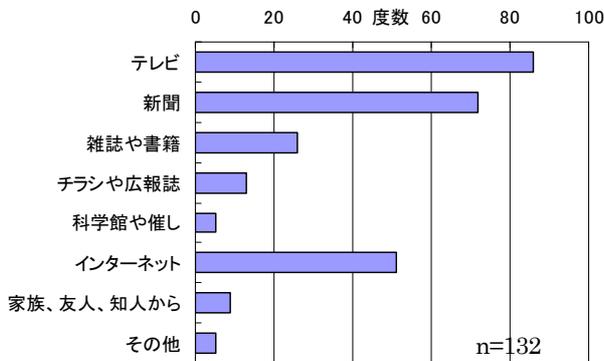


図3 「高レベル放射性廃棄物」に関する情報源

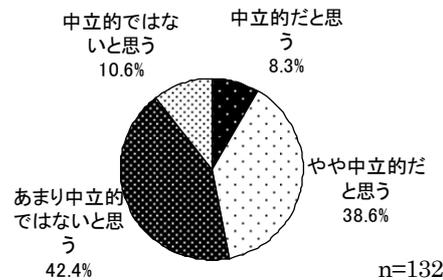


図6 新聞のHLW記事についての中立性

『メディアの種類により判断』と、『他の内容を見て判断』において有意差が認められた ($V=.211^*$, $V=.199^*$)。一方、『インターネット』から情報を得るとの回答者は、『信頼しない』、『名前を見て判断』、『複数の情報と比較』と有意差が認められた ($V=.194^{**}$, $V=.156^*$, $V=.171^{**}$)。

以上より、利用する情報媒体により、情報の信頼性への見方が異なることが示される。

一般に「情報の信頼性が高いとされる新聞」を情報源とする人は、メディアの種類や内容を判断材料とする一方で、一般に「情報の信頼性が低い」と言われるインターネットを情報源とする場合は、基本的には信頼しないという態度を示したり、発信元の名前や他の複数の情報との比較による判断を行っていると考えられる (cf. 図5)。

(2) 情報の中立性

新聞の「高レベル放射性廃棄物」記事についての中立性を質問文「新聞の「高レベル放射性廃棄物」に関する記事は、高レベル放射性廃棄物の処分問題について、推進や反対など特定の立場に揺るいであったり不利であることなく中立的な観点から書かれていると思いますか」に対する回答より測定した (cf. 図6)。

本項目と「ホームページの所有」との間に有意差が認められ、所有する人ほど、中立的ではないとの回答傾向がみられた ($V=.222^{**}$)。本項目と「サイトの利用状況」との間には有意差は認められない。

以上より、情報収集に留まらず、自ら情報を発信する立場を経験することで、情報の中立性等の判断が厳格になると考えられる。

付記

調査は、経済産業省委託業務「平成20年度核燃料サイクル推進調整等(リスク・コミュニケーション支援システムの運用)」(慶應義塾大学SFC研究所)の一環として行われた。

参考文献

- 坂本修一・神田啓治 (2002) 高レベル放射性廃棄物処分地選定の社会的受容性を高めるための課題に関する考察. 日本原子力学会和文論文誌, Vol.1, No.3, 18~29.
- 水上象吾・西田奈保子 (2007) 高レベル放射性廃棄物地層処分に関する市民意識の地域性についての考察. 環境情報科学論文集, Vol.21, 231~236.
- 「高レベル放射性廃棄物・TRU廃棄物 リスク・コミュニケーション広場」 <<http://de.gsec.keio.ac.jp/rcsystem/>>2009.4 参照

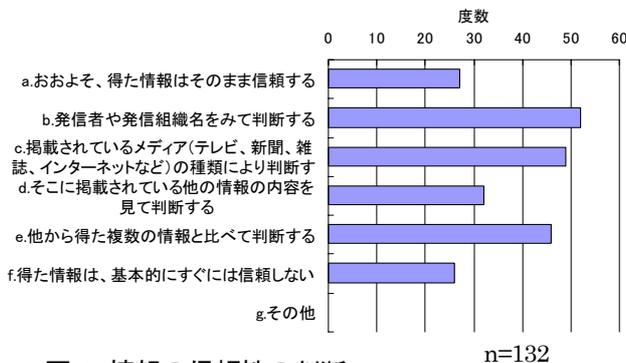


図4 情報の信頼性の判断

サイトの利用頻度が高い人ほど、信頼性の判断を『名前を見て判断』する傾向があり ($V=.232^*$)、『他の内容を見て判断』する傾向がある ($V=.386^{***}$)。『他の複数の情報と比較』とは有意差は認められないが、サイトの利用頻度が高い人ほど割合が多い傾向があり、サイトの利用頻度が低い人ほど、『信頼しない』を選択する割合が高い結果が示された。

以上より、メディア利用のスキルが高い人は、情報の信頼を判断する基準を持ち、一方、スキルが低い人は、情報を解釈せず、信頼しないという拒否的態度の傾向がみられる。

「情報の信頼性判断」と「ホームページの所有」との間に有意差が認められた。所有する人ほど『そのまま信頼』との回答は少ない ($V=.132^*$)。以上より、メディア表現スキルの程度が高い人ほど、情報を解釈、評価し、信頼性に対する慎重な判断を行うと考えられる。

さらに、「高レベル放射性廃棄物に関する情報源」とのかかわりにおいて、『新聞』から情報を得るとの回答者は、

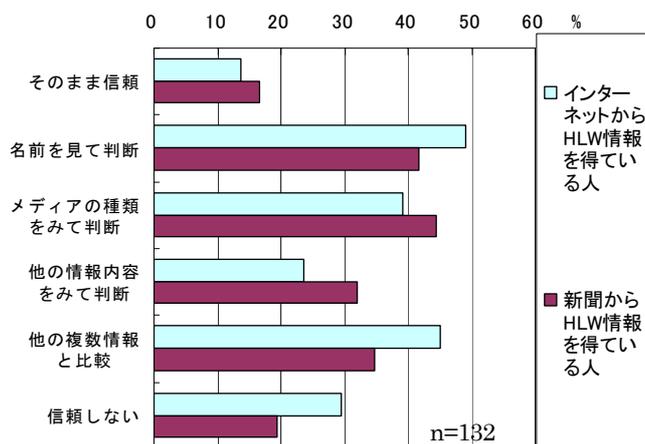


図5 インターネットと新聞の信頼判断の差